

令和3（2021）年度 第2回 交野市図書館協議会 議事録

1. 日 時 令和3年11月30日（火）午後4時から5時

2. 場 所 交野市立青年の家2階 会議室

3. 出席者

(1) 委 員 木下会長、中嶋副会長、有山委員、今堀委員、良委員、
神原委員、小嶺委員、恒松委員、西岡委員、
松井委員、山岡委員

(欠席：足立委員、栗原委員、島田委員、向井委員)

(2) 事務局 平井館長、川村課長、福田課長代理、和田係長

(3) 傍聴者 なし

4. 次 第

(1) 開会

(2) 第4次交野市子ども読書活動推進計画（素案）の作成について

(3) その他

(4) 閉会

5. 概 要

(1) 開会

(2) 館長挨拶： 忙しい中出席いただき感謝する。

コロナ禍でワークショップ等実施できなかったが、関係者・関係団体、学校等に協力を得てアンケート調査を実施した。アンケートでの意見を踏まえ、素案として取りまとめたので、協議会の意見をいただきたい。

コロナ禍、市では11月に入って1名の発症、このまま推移すればいいが、変異株も出てきている。

計画は今後、3月までには取りまとめていきたいと思っている。本日、意見をいただきより良いものにしたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。

(3) 配布資料の確認

第4次交野市子ども読書活動推進計画（素案）

第4次交野市子ども読書活動推進計画（素案）概要版（A3カラー版）

第4次交野市子ども読書活動推進計画策定に係る事務処理要領

令和2年度交野市立図書館年報

会 長： 館長の挨拶にもあったが、ワークショップではなく、アンケートをしていた
だけ、アンケートからの主な意見を素案に盛り込んでいただきまとめてある。
みなさま、これについて意見をいただきたい。

(4) 委員出席状況報告

事務局： 本日の委員出席状況について報告する。

委員15名中11名の出席で、交野市立図書館条例第4条第6項により会議
は成立。

会 長： 資料の第4次交野市子ども読書活動推進計画策定に係る事務処理要領につい
て説明を。

(5) 第4次交野市子ども読書活動推進計画策定に係る事務処理要領について

事務局： 7月27日に事務局から図書館協議会のみなさまを策定委員として構成し、計
画策定を進めたいと申し上げたが、そのためには、策定委員会設置条例を制定し
なければならず、時間的な余裕がないため、内部で検討した結果、みなさまの辞
令交付日の5月26日付で要領を作成させていただいた。

内容としては、第2条に「協議会は、計画策定のため、次に掲げる事項につい
て関わるものとする」とし、計画の策定に関する事、子どもの読書活動推進の
施策に関する事などを挙げさせていただいている。今後は委員みなさまのご
意見をいただくという形で進めたいと思うので、よろしく願いたい。

会 長： 第4次交野市子ども読書活動推進計画（素案）について説明を。

(6) 第4次交野市子ども読書活動推進計画（素案）について

事務局： 交野市では、平成18年に第1次交野市子ども読書活動推進計画を、
平成27年には第2・3次交野市子ども読書活動推進計画を策定し、子どもの読
書活動の推進に努めてきた。

今年度、前計画における成果や課題、読書を取り巻く環境の変化等を検討、検
証した上で、国の第四次子供の読書活動の推進に関する基本的な計画及び大阪

府の第4次子ども読書活動推進計画を参酌して、策定作業を行っている第4次
交野市子ども読書活動推進計画の素案を取りまとめたので説明させていただく。

素案は60ページとボリュームがあるので、概要版にまとめている。素案と概
要版を見ていただきたい。

第1章は、計画の理念と目的となっている。

読書を楽しむことは、子どもの豊かな感性や情操を育み、成長していく子ども
たちを支え続ける。前計画の理念としては「子どもの周りに本があること」「子
どもが本を読みたいと思うきっかけをつくる人が周りにいること」となってい
る。

子どもの読書への関心を高め、発達段階に応じた読書習慣を身につけ、生涯に
わたって読書を楽しむことができるよう、家庭・学校など・地域・図書館等が連
携し、社会全体での取組みとし、子どもの読書活動を推進することを目的とする。

計画の期間は、令和4年度から8年度の5年間を予定している。

第2章は、前計画の取組みと成果となっている。

5年間の取組みを一覧にしている。平成29年には、こども図書室をリニュー
アルオープンした。子育て支援事業拠点であることから、児童書と子育て支援関
連の一般書の所蔵として特化している。令和元年には、星田会館図書室をオー
プンした。星田会館内に図書室機能を移転したものである。

事業としては、平成27年8月に幼稚園・保育園協力のもと、絵本紹介冊子の
配布を開始し、3歳児クラスに5年間継続して配布している。

同年12月には、ブックスタート4か月健診にて絵本の配布を開始した。

平成28年にぬいぐるみお泊り会、29年には一日図書館員事業を開始した。
以前からの読書に関連づけたイベントである定例おはなし会、ブンブン劇場、
小学校の図書館見学受入、司書が学校へ行く訪問おはなし会、中学生の職場体験
学習受入、職員出前講座に追加して事業を拡大してきた。

ほかにも、学期貸出の学級文庫や單元ごとの調べ学習支援として団体貸出を
行い、学校図書館をバックアップさせていただいている。

各校の蔵書充足率は素案の14ページに、指導課の独自調査結果も20ペー
ジに記載があるので参照いただきたい。

これら取組みの詳細は12～17ページに。

その中でも主だった成果を3つ挙げさせていただく。

一つ目は、こども園・幼稚園等における読書活動の推進として、ブンブン号の
乗り入れを行った。事前のアンケートにより、希望する園へ巡回するものとなっ
ている。始めた当初は5園だったが、今は11園に行っている。この活動をきっ
かけに図書館から遠い地域のこども園や保育所との連携ができ、絵本の団体貸
出、リサイクル・フェアへの参加へつながり、結果、園で本がある環境の充実が

図れている。

二つ目に、小中学校における読書活動推進として、学校図書館支援事業を実施し、市内14校の資料整理、電算化を行った。また、指導課、学校、図書館による学びあいサポーターという、人の配置ができた。

そのほか、図書館発の小学校巡回便による物流の確保もできた。

令和2年策定の学校教育ビジョンで、小中一貫教育、交野市の学びの中の「ことばの力の育成」とうたわれており、「学校図書館を利用した読書活動、資料の活用を伴った授業の推進」に結びついたと考えられ、今後も継続していく。

三つ目に、地域における読書活動推進として、平成29年度から3年間よみきかせサポーター制度を実施し、連続講座を受講した終了生より3団体が結成され、こども図書室、星田会館図書室でおはなし会を行っている。図書館としての支援では、月に一度定例会が行われるので、資料提供・情報提供を行っている。ここまでが主だった取組みと成果となっている。

少し前後するが、素案4～7ページには大阪府の調査、8～11ページには本市調査、府との比較及び分析を掲載している。

ワークショップ等ができなかったため、現場でのニーズを知るためアンケート調査を行った。大阪府の調査と比較できるよう対象を小学校5年生、中学校2年生、高校2年生に絞って調査を行った。また、ブックスタート開始から5年が経過したことからその検証も併せて行った。

市内小中学校および府立高校等、関連機関に協力いただき、のべ2,705人、35施設から回答を得た。詳細については、素案8～11ページと参考資料に掲載している。

傾向としては、「読書が好きか」という問いに小中とも府よりも4ポイントほど上回っている。「1日の読書時間」、「読書しない理由」は府内アンケートとほぼ同じである。

交野市独自の設問「学校図書館は好きか」に対して、好き・どちらかといえど好きが小学校で86%、中学校で54%と回答しており、「読書が好きではない」という設問の、小学校20%、中学校34%と比較すると高い。図書館だけではなく居場所としての機能も果たしていると考えられる。

市独自設問の「好きな作家や本、文章はあるか」で、「いる」が小中高生とも8割を超えた。読書の好き嫌いに限らず、ある程度の読書経験はあり、好みや嗜好もしっかりあることがわかる。

第3章は、第4次計画についての記載となる。

平成27年～令和元年度までの第2・3次の計画において、ある程度の目標達成と成果があったことから、その理念とともに基本方針、基本項目、方向性を継承していく。

主な施策については、毎年行っている進捗状況調査をふまえ、5年間の成果と課題を洗い出し、関連各課と施策の方向性を協議した。

国や大阪府の読書計画、社会情勢の変化を踏まえたものとしている。これらは、体系図にまとめている。

理念としては、「子どもの周りに本があること」「子どもが本を読みたいと思うきっかけをつくる人が周りにいること」

基本方針は、「1. 読書の機会の充実」「2. 環境整備・充実」「3. 社会全体での取組み」「4. 情報の提供・啓発」

基本項目として、家庭における読書活動の推進、学校等（こども園・学校など）、地域、図書館、普及啓発活動の5つとなっている

新規事業及び充実する取組みについては、概要版の右の表になる。大半が継続となるが、ここでは新規と充実する取組みについてあげている。

「子どもが集う場所での児童書の充実」について、平成29年から開始したまちの図書館事業については、当初10か所から23か所へ協力場所が増加している。「まちの図書館」の協力場所の見直し、児童書の充実を図る等、今後も継続していく。ほかに連携できるところがあるか、子育て支援課と協議していき、児童書のある環境に取り組んでいきたい。

「赤ちゃんタイムの実施」について、子どもが騒ぐので図書館に行きづらいという意見があったことから、「赤ちゃんタイム」として子連れ来館OKの時間帯を設定したいと考えている。他市の状況をみながら進めたい。

「図書館利用の整備」については、園への配送や返却ポストの設置などの意見があったので、図書館でできるサービスの拡充などを図っていきたい。

「乳幼児期の絵本の紹介」について、広報紙に掲載していたものが60冊ほどあるので、年齢別おすすめ絵本等を掲載した冊子作成を予定。

学校については、「学校図書館を活用した授業の推進」の充実とされており、図書館として、選書に関する情報提供等や学校図書館の環境整備というところで充実を図っていきたい。学びあいサポーターの配置、小学校巡回便による物流確保について一定の成果があったと考えると、読書離れが著しい中学校への巡回便なども視野に入れて検討していきたい。

「子どもの読書に関連した各種講座開催」について、5年間で3団体が立ち上がったが、その後も継続してその方々（よみきかせサポーター）へのフォローアップ研修、情報提供を継続、地域家庭文庫への新刊本購入支援、市民への啓発活動に努めたい。

「図書館システムの機能を活かした児童向けサービスの向上」について、図書館ホームページを活用した読書推進の普及啓発活動、具体的には読書手帳、読書マラソン、関連機関へのリンクや配布冊子のデータ公開を予定している。

「読書に障がいがある子どもへの支援」について、大活字本やさわる絵本、LLブック等の資料整備及び個々のニーズに応じた資料収集を考えている。読書バリアフリー法施行に伴い、電子書籍やオーディオブック等紙媒体の本以外の所蔵や、情報収集等検討していきたい。

「ヤング・アダルト図書コーナー」の設置について、ヤング・アダルトとは、図書館用語では12歳から18歳の中・高生を中心とした年代をさすもので、この方々への読書環境や蔵書の充実ということで、一般書・児童書に限らず興味関心のもてる本を集めて書棚を作りたいと考えている。

「図書館利用の整備」について、子育て世代の図書館利用にかかる環境整備、サービスの拡充を図る。

概要の表には普及啓発活動についての表記はないが、4つの継続施策がある。

以上、第4次交野市子ども読書活動推進計画について、これらの方向性で取り組んでいきたいと考えている。説明は以上となる。

会 長： 概要版と素案に基づいて説明いただいた。計画の背景と目的、前計画の成果ということで主なもの3つをあげていただいた。一つ目がブンブン号の巡回、二つ目が学びあいサポーター、三つ目がよみきかせサポーター制度、これにより新しい団体が3つできたという説明。今後の新しい事業、充実する事業ということで3章の説明をしていただいた。概要、素案本体、いずれからでもよいので、なにか意見があれば。

委 員： 概要版の一覧表の新規事業で、令和4年度準備、令和5年度からスタートというスケジュールになっているが、図書館の体制上このとおりに進むのか。スタートが全ていっしょでよいのか。

事務局： 令和4年度準備、令和5年度から矢印となっているが、本来的には、令和4年度から準備も含めて検討。この表示のしかたは、準備と分けたというのが少し違和感があるのかもしれない。すべて4年度から出発するという考えでいる。準備ということばはなくし、すべて令和4年度からに変えたい。

会 長： 意見は反映していただくということでよろしくお願ひしたい。

アンケートからの主な意見をそれぞれの項目にまとめたいただき、そこから見えてきたものを新規、継続して充実という流れ、丁寧に反映してもらってると思う。たとえばわかりやすかったのが「子どもが騒ぐので図書館に行きづらい」ということで、それを「赤ちゃんタイム」の実施につなげている。他市でも取り組んでいるところもある。アンケートから今後の取組みへとつなげているところがいくつもあって、実態に基づいて改善というところが今回の5年間の計画かなと感じた。

関心をもたれるところがそれぞれ違うと思うが。

委 員： アンケートに基づく取組みを盛り込まれてすばらしいと感心している。新規項目を追加されていてたいへんだと思うが、実現できたらすばらしい。がんばっていた

だきたい。

会 長： 地に足のついた計画となっている。5年間で実現性が高いものと思う。

学校現場の方はどうか。アンケートの回収率も高く協力いただいたようだが。

委 員： 学びあいサポーターの配置、団体貸出などありがたい。学校が図書館から遠く、図書館へ足を運ぶ子どもが少ないので、ブンブン号が来てくれたらうれしいという話を教諭としていた。

対面でよみきかせができないので、図書委員がズームでよみきかせをしているが、著作権の関係で全部を読めない。上手にタブレットと本を活用できたらいいなと思う。

会 長： 学校現場で充実したこととして、素案30ページに授業で学校図書館を活用する場面が増えたなどがあるが、実際にそういう状況であることがよくわかった。

他の立場の方はどうか。

委 員： 緊急事態宣言下では、ほとんどの文庫はなかった。解除になれば、居場所的なものが必要ということで開室しているところもある。なるべく開けたいと思っている。おはなし会や手作り会などできないので苦労しているが、たくさん来てもらっている。

図書館は、事業計画もたくさんあって負担も多いのではないかなと思う。こども園や学校との連携も学校司書の助けがないとできない。そういう意味では絶対数が少ない。学びあいサポーターも大事だが、学校司書の充実も市として取り組んでいただきたい。

会 長： 他に、どなたか。

委 員： 今後いろいろな機会の説明の際には概要版を使うと思う。

ポイントを絞ったものが概要版になる。その中で、アンケートからみえる課題の下の大府との比較は「読書は好き」は市の方が高く、逆に「読まない」は市は多いと矛盾している、これも課題だとは思いますが、課題をもう少しまとめてはどうか。概要版だけをみるとちょっと唐突な感じがする。

事務局： 府との比較を削除し、現状・課題を整理したい。

会 長： 平均値比較、ひとつのことを取り上げて何が見えるのか、数字的にも大差がないと思うので、このスペースを使ってということ。

アンケートの詳細に、読書をしていない時間に何をしているのかということでは、ゲームやYouTubeが小学生では7割以上、高校生になると8割近くになっている。ここをどうさわろうと傾向は変わらないと思う。小中学生の6割が図書館を利用してきているという結果。図書館としての課題は、大きい意味で不読率を下げるということではなく、6割もすごいが、6割に甘んじることなく、あとの4割をどうするかということを経年かけてなされていかれることではないかなと思う。

委 員： 図書館だけががんばるのではなく、家庭の意識も大事だと思う。

会 長： 家庭における読書活動の推進では、素案27ページの本の紹介をしてほしいということなど、ホームページを通じて充実していかれるのではないかと思います。

委 員： 31ページ表の「学校図書館の整備」では学校司書の配置とあるので、今後の取組みの文章の中の、司書教諭や学びあいサポーターのみならずではなく、司書教諭や学校図書館司書のみならずにはできないのか。学びあいサポーターというのは交野市独自の制度だと思っていて、学校図書館司書の全校配置をめざすとかことばとして。

事務局： 学校の取組みになるので、進捗状況をふまえて今後どういうふうにしていかれるか意見を伺ったところ、こういう形になった。

教職員の意識や指導力の向上等、学校全体で取り組みたいということで、ピンポイントで人に担ってもらおうというのではなく、各校で取り組んでいきたいという回答になった。

委 員： いつも人のことばかり言うが、学校の専任の司書教諭を希望する。学校図書館司書、全校に一週間に2日だけということではなく、ずっといてくれるということをめざしていければいいなと思う。

会 長： 他にお気づきになったことはないか。

概要については、具体的な意見をいただいた。本日予定していた案件は全てだが、事務局何かあるか。

事務局： 今後のスケジュールについて。

12月27日の教育委員会で素案を報告、1月に市長・副市長・議会への説明、パブリックコメントを実施、その結果報告を2月下旬か3月上旬の第3回図書館協議会でと考えている。最終的には3月下旬の教育委員会で成案とする予定。

事務局からお願いがある。本日いただいた意見を踏まえて今後教育委員会や議会へ説明していくが、各段階で修正・指摘があった際に、このようにお集まりいただくのは時間的に難しいため、第3回図書館協議会までの修正等は会長一任ということにさせていただきたい。

(異議なし)

会 長： がんばる。

来年度から5年間の計画なので、今年度末まで示していただいたスケジュールで進めていただくことになる。

委 員： 内容とはあまり関係ないが、一つは表現。「子ども」と「読書」という表現。もう少し具体的に、幼児とか小学校低学年とか言い替えられるところがあると思う。子どもは抽象的。年齢差が大きいのに子どもという表現が多く使われていて、どの対象を言っているのか。読書と言っても、科学もあれば文学もある。幼児のよみきかせと小学生の時とは違うと思う。子ども・読書という表現、年齢の違いを明確にされた方がよい。

もう一点、アンケートを提示していただいているが、分析も書いてほしい。どういう意味があるのか、何%多い・少ないだけではなく、どういう傾向がわかるとか、ちょっとコメントを。市の傾向をまとめていただけたら。

事務局： 11ページに分析結果として全体のことを書かせていただいている。

会 長： アンケート公開される時には、そのへん足していただいてまたご検討を。最初のご意見で、もしできるのであれば乳幼児など書き替えていただくということ。これまでの計画や府の計画との整合性もあるので、可能な範囲で検討いただければ。

以上をもって令和3年度第2回交野市図書館協議会を終了する。